

訪問看護ステーションつくしのえん

訪問看護に関わる方々の声をご紹介します。今回は、当院の医師からです。

- ・診察時の状況だけでなく、訪問看護からの情報(生活の様子、体調など)が、治療につながっている。
- ・服薬状況を確認できるのがよい。体調の変化を速やかに報告してくれるので、早めに対応できる。
- ・不調時、早めに受診を促してくれる。そのことが不調に気づききっかけになっている。

- ・診察場面で本人やご家族が伝えきれなかったことを、訪問看護から情報を得ることもでき、治療につながっている。
- ・病院に併設しているステーションなので、情報の伝達が速やかで、早期に治療につなげることができる。



訪問看護がよりよい治療につながります。みなさんも、私達とお話ししてみませんか。

訪問看護ステーション 管理者 三好

今回は、ご利用者様やご家族からの声をお伝えする予定です。

訪問看護ステーションつくしのえんの詳細については、
電話 017-718-7113 まで



つくしが丘病院に来られる方、面会を希望される方へご協力をお願いします

- 病院に来られる方(患者、患者の家族、業者等)
 - ・来院中はマスク着用と手指消毒を行ってください。
 - ・発熱等かぜ症状がある場合や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検査が陽性となった場合は来院を控えてください。
- 面会を希望される方
 - ・面会は15分、2名程度とします。
 - ・患者・面会者ともに面会中はマスクを着用してください。
 - ・面会中の飲食は控えてください。
 - ・家族・保護者・治療に関係する者以外の面会は控えてください。
- 外出泊される方
 - ・外出泊の迎え等の付き添いは2名程度としてください。
 - ・外出泊中は、手指消毒や混雑した場所でのマスク着用等の感染対策を行ってください。
 - ・外出泊中に発熱等の症状が現れた場合、可能であれば外泊を延長し、療養後に帰院してください。

つくし つめこみニュース

つくしが丘病院では、チーム医療に参加していただける仲間を募集しています。

POINT 例えば医師の場合…
急性期救急医療から児童思春期、精神鑑定などの司法精神医学に至るまで幅広く診療をしており臨床経験をしっかり積めるほか、精神保健指定医、精神科専門医などの取得にも十分期待にお応えすることができます。また、メリハリのある勤務体系のため、プライベートな時間も充実させることができます。



青森県病院事業管理者就任のご挨拶

病院事業管理者 大山 力



2024年4月1日付けで病院事業管理者を拜命した大山です。

2004年から弘前大学泌尿器科学講座教授を務め、2020年4月から2023年3月まで弘大病院の病院長を務めました。弘大病院は神経科精神科を標榜し、同診療科の外来と精神科病棟もありましたので、精神科の管理・運営の経験もごさいます。

現在、少子高齢化が急速に進行し、特に青森県においてはさらにその加速度が増している印象があります。医療を取り巻く環境がかつてないスピードで変化していますので、それに応じて医療提供体制も適応していく必要があります。さらに、青森県立中央病院と青森市民病院の統合計画も進行中ですので、これから数年間

は青森の医療界にとって激動の時代を迎えることとなります。

激動の時代と聞くとちょっとびっくりしますが、心配ご無用です。私たちはコロナ禍という未曾有のパンデミックを経験し、それを乗り越えてきました。私が弘大病院長を務めていた3年間は、ちょうど新型コロナウイルス感染症が2類相当として扱われていた期間と重なります。

コロナ禍では、想定外の事象に対して、領域を超えた連携と協力で数々の難局を乗り越えてきました。この経験は、これからの多種多様な医療環境の変化に対応するうえで大きな財産になります。

青森県は精神科専門医の数も少ないので、専門医の養成も積極

的に行っていききたいと思います。幸い、昨年4月に県病メンタルヘルス科に佐藤 靖 先生が着任なさいました。これから、桐生病院長、敦賀副院長をはじめ、つくしが丘病院の皆様と力を合わせて良質な精神科医療を提供して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

看護部長就任のご挨拶

看護部長 山口 佳代子

本年4月から看護部長となりました山口佳代子です。

つくしが丘病院は、昭和51年に開設した県内唯一の県立精神科病院です。平成21年に改築し、平成25年及び平成29年の病棟休止

を経て、現在は3病棟が稼働しています。また、令和元年7月には訪問看護ステーション「つくしのえん」が開設しました。

看護部は、病院の理念、運営方針のもと、「患者中心の看護の実

践」「豊かな人間性に基づいた責任ある看護の実践」「地域住民のニーズに対応した看護サービスの提供」を理念としています。この理念を踏まえ、専門的知識・技術を深め、倫理的な問題につい



青森県立つくしが丘病院
〒038-0031 青森市三内字沢部353番地92 TEL 017-787-2121
ホームページ <https://aomori-tsukushigaoka.jp/>
アクセス
青森市営バス
・古川バス停から「つくしが丘病院行き」又は「岩渡行き」約20分
タクシー
・JR青森駅から約20分
・JR新青森駅から約5分



て考えながら、チーム医療を推進し、質の高い看護サービスの提供を目指しています。

そのためには、看護師の教育が肝要です。今年度の教育面では、倫理的課題に気づき学ぶことで倫理的感受性を培うこと、対象者への理解を深めるためのアセスメント力を強化することに重点を置いています。また、安全な看護の提供のためには職場の心理的安全性が大前提となるため、倫理的職場風土や風通しの良い部署の雰囲気作りに向けて、看護師長が中心となり取り組んでいるところです。

私は、当院での勤務は二度目となります。一度目は平成10年で、二度目は令和元年からとなります。一度目の平成10年当時は、長期入院の患者さんが多く、運動会や夏祭り等の院内行事が盛んでした。運動会前にはグラウンドの石拾いや整備をしたり、夏祭りで

は甘酒や綿あめを作ったりしたことが印象深く、今となっては隔世の感があります。翻って二度目の勤務となる令和2年からのコロナ禍では、コロナ病棟の稼働やクラスター対応等で咄嗟の判断が必要とされ、皆で知恵を出し合い、部署や部門を超えてフォローし合い対応してきました。

昨今は「VUCA時代」と言われ、これは変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の4つの単語の頭文字をとった造語です。コロナ禍や災害発生時への対応等を通して、何が正解か分からなかったり、多様な価値観や行動様式が求められたり、まさに、不確実で複雑、不透明で曖昧な状況にあると実感しています。

さて、青森県の医療を取り巻く状況としては、第8次青森県保健医療計画がスタートしました。精神疾患対策では、入院患者の減少・通院患者の増加に対応した医

療機関等の役割分担や連携体制の構築、地域移行・地域定着に向けた地域包括ケアシステム構築のための取り組み強化の方向性が示されています。

看護部は、不確実で複雑、不透明で曖昧な状況にあっても、患者さんの思いを大切にしながら、医療と生活の両方の視点を持って看護実践することで、看護の本質からぶれずに、課題や変化にしっかりと対応できる組織を目指したいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



新旧のつくしが丘病院 (手前がH21.9に共用開始した現院舎)

医療連携室の紹介

こんにちは。このたび医療連携室で勤務することになりました七戸です。

今回は医療連携室ではどのようなことをしているのかを簡単に紹介したいと思います。医療連携室には、医師、看護師、精神保健福祉士、公認心理士など多職種のスタッフがいます。

「入院や受診についての相談」「訪問看護を利用したい」「医療費や生活費について不安がある」「障害者手帳、障害者年金など

様々な制度について知りたい」「転院・施設入所などについて相談したい」「退院後の生活について相談したい」「認知症に関すること」

などなど、患者さんの様々な悩み・相談をお受けしています。相談では患者さんやご家族の悩み解決に向けて、親切丁寧な対応を心掛けています。

ご相談内容は、第三者に漏れることはありませんので、安心して気軽にご相談ください。

医療連携室 次長 七戸

電話相談
 平日 9時～12時
 13時～16時

- 医療連携室
017-787-2121
内200,202,204
- 認知症相談専用
017-788-2988



良い栄養状態とは？

中央診療室 管理栄養士 田沢

「元気に動ける健康寿命を延ばすことこそが大事！そのためには良い栄養状態を保ちましょう！！」なんてフレーズを健康番組などで耳にします。では、良い栄養状態とは具体的に何を指すのでしょうか？

太りすぎず、痩せすぎず、野菜をたくさん食べること？なかには皆で楽しく食べるこそが良い栄養状態だという考えの方もいらっしゃる。



そんななか2018年に世界の主要な臨床栄養学会が協力して「GLIM基準」という低栄養の世界

基準を定めました。この基準は従来の食物摂取状況に加えて、筋肉という新たな項目が示されています。まだまだ曖昧な部分も多い栄養状態ですが、筋肉量が客観的・具体的な指標となることは間違いありません。

つくしが丘病院でもGLIM基準を組み込んだ栄養評価を6月から始めておりますので、ご自身の栄養状態が気になる方は気軽に管理栄養士にご相談ください。また、食事内容が不安な方には栄養食事指導も行っていますので、ぜひご検討ください。



家族教室通信



医療連携室 精神保健福祉士 川崎

令和6年度の家族教室は、コロナ禍前なみの全5回を予定しています。講義とグループワーク（※テーマによってはグループワークを開催しないことあり）を実施していますが、講義のみ参加も可能です。当院職員だけでなく、院外の関係機関からも講師としてご協力いただき充実した内容になるよう努めています。

第1回目は、5月24日に「退院後入所できる施設について(障害編)」をテーマに開催しました。

講義では、入所できる施設にはどんな種類があるのか、どんな人が入所できるのか、入所するにはどのように相談すればいいのかなど、事例も交えて分かりやすく説明がありました。

グループワークでは、ご家族が悩まれていることをテーマに講師の先生と当院職員もグループに加わって話し合いました。参加されたご家族からは「日頃悩んでいることをどこに相談したらいいのか、こんなこと相談してもいいのか

とってしまい、誰にも相談できなかった。グループワークに参加してよかった。」との感想が聞かれました。複数人の前で自身の気持ちを話すことは誰しも緊張するかと思います。グループワークでは「発言者の話を聴く」、「発言者の話を否定しない」ことをルールに、少しでも話しやすい雰囲気づくりに努めています。

～2回目は8月23日(金)～

第2回目は、「自立支援医療制度と精神障害者保健福祉手帳」をテーマに8月23日に開催予定で、講義終了後にグループワークも行います。

家族教室については、当院ホームページや院内の掲示などで案内していますので、是非ご覧ください。

